

第6章

歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用

第6章 歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用

1 関連文化財群

(1) 定義と目的

関連文化財群とは、指定・未指定に関わらず多種多様な有形・無形の文化財を、歴史文化に基づく関連性、テーマ、ストーリーによって一定のまとまりとして捉えたものです。複数の文化財を総合的・一体的に保存・活用することにより、その魅力を高めるとともに、本市の歴史文化や文化財の価値を分かりやすく市民に伝えることを目的としています。

(2) 6つの関連文化財群

① 那須の大地と連山～大扇状地と海の記憶～

1. 海の記憶と静かな湖畔
2. 日本有数の大扇状地

② 歴史が示す那須塩原～縄文から戦まで～

1. 那須塩原市の遺跡分布と立地
2. 出土した遺構と遺物
3. 那須野の巻狩、群界の攻防～中世の城館～
4. 各藩・幕府領が入り乱れた江戸期の支配者
5. 那須塩原地区と戊辰戦争

③ 関東と東北を結ぶ道～街道と鉄道～

1. 奥州道中と鍋掛宿・越堀宿
2. 物資運送に利用された原街道（原方街道）
3. 会津中街道～険しい山越えの道～
4. 塩原新道の開削
5. 近代那須地区の歴史を大きく変えた東北本線

④ 水の恵みを求めて～疏水と大農場～

1. 江戸時代の新田開発と用水
2. 日本三大疏水の一つ那須疏水～大農場を潤す水路～
3. 大農場による開拓
4. 華族の別邸

⑤ 産業と民俗～農村のくらしと文化～

1. 那須野が原扇頂部の農業とくらしの文化
2. 地域の絆とともに豊作祈願・家内安全を祈る郷土の芸能

⑥ 温泉が生み出す文化～信仰・文学・芸術～

1. 1200年の歴史を有する塩原温泉
2. 板室温泉と三斗小屋温泉
3. 温泉と芸術～文豪と美術家～
4. 山岳信仰～白湯山・黒滝山・嶽山～

※①～⑥の構成歴史文化資源リストは、参考資料2に記載。

① 那須の大地と連山～大扇状地と海の記憶～

今から 1,500 万年前、那須塩原市は一部を除き、海底にありました。やがて海底が隆起し陸地になり、火山の活動などにより大きく姿を変えていきます。そして、河川が谷を刻み土砂を堆積させて、広大な扇状地が形成されました。市内に見られる豊かな自然風土はこうした大地の変遷によりもたらされたものです。

1. 海の記憶と静かな湖畔

那須野が原一帯は、かつて海底でした。海底には長い年月をかけて砂や泥、海底火山の火山灰や軽石など様々なものが堆積しました。それらの岩石を貫いてマグマが幾筋か地上へ向かって上昇しました。海底はやがて隆起して陸になり、河川により侵食されて塩原溪谷の象徴でもある深い谷と断崖絶壁の景観を作りました。福渡に見られる天狗岩は、この時の海底火山の火山灰が固まってできたもので、独特の緑色をしていることから緑色凝灰岩（グリーントフ）とよばれています。このグリーントフを貫いたマグマが冷え固まったのが、安山岩質の貫入岩です。マグマが地層中で冷却されるときに、鉱物同士が一定の規則性をもって固まり、その際、規則正しい形に亀裂が入ります。その冷え方により柱状になる柱状節理と板状になる板状節理になります。名瀑として有名な竜化の滝や布滝の周辺では、この両方を見ることができます。この柱状節理は、材木を立てかけたように見えることから「材木岩」とよばれ、昔から塩原を代表する景観の一つとして知られていました。川に侵食された崖には、貝などの化石が見られることがあります。これは新生代第三紀中新世の中期から後期（約 1,400 万年前～900 万年前）に塩原の海に生活していた生き物たちの化石です。大黒岩付近では、これらの堆積した地層を連続して観察することができ、「塩原動物群」とよばれ、日本のこの時代を代表する化石の産地として知られています。

やがて、50 万年ほど前になると那須野が原の北では那須火山群、西では高原火山群が活動を始めます。那須火山群は数度にわたり山体崩壊を繰り返し、岩屑なだれを起こしました。一方、高原火山群は火砕流を数回噴出し、それぞれの火山活動により那須野が原は姿を変えていきました。この一連の活動で、高原火山の北部にはカルデラ地形が生じたと考えられています。そのカルデラにはやがて周囲の河川から水が流れ込みカルデラ湖になりました。高原火山の末期の活動で溶岩や火山噴出物が流れ込み今の塩原盆地の形状のような三日月形の湖になりました。その湖には長い年月をかけて泥や砂が静かに堆積し、湖畔に生えていた樹木からはたくさんの落ち葉がその砂や泥の間に挟みこまれ、やがて「木の葉石」とよばれる化石になりました。木の葉化石園や要害公園などでは、塩原湖成層とよばれる湖底に堆積した地層を観察することができます。



材木岩



大黒岩



塩原湖成層

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	塩原の材木岩・大黒岩(含化石チャネル堆積物)
未指定文化財	塩原湖成層・木の葉化石園化石産出露頭・箒川要害公園露頭・塩原の天狗岩・薙刀岩・回願の滝・連珠の滝・竜化の滝・布滝・雄飛の滝・魚留の滝

2. 日本有数の大扇状地

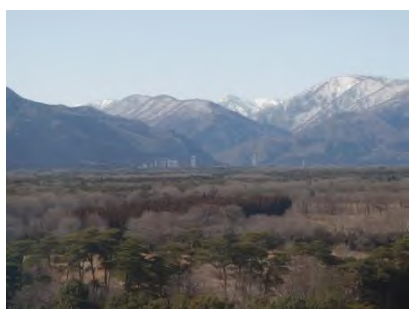
那珂川と箒川に挟まれた那須野が原には、日本最大級の扇状地である那須扇状地があります。その面積は40,300haあり、扇状地は北西から南東に向かい緩やかな傾斜を持つ台地状になっています。30万年ほど前の高原火山の活動による火砕流堆積物などで埋め尽くされた大地は、その後、河川により侵食されていきました。侵食によって川の中州のように削り残された部分が、烏ヶ森や常盤ヶ丘、藤荷田山や稲荷山などの分離丘陵となりました。やがて侵食が落ち着くと、河川により運ばれてきた礫や砂などが次々と堆積するようになり、広大な扇状地が形成されました。

那須扇状地の特徴は、この作用が那珂川・熊川・蛇尾川・箒川といった複数の河川によるものであるという点です。そのため正式には複合扇状地ということになります。扇状地のほぼ中央を流下する蛇尾川と熊川の水は、扇頂部から地下に潜ってしまい伏流しています。そのため普段は水無川になっていて、川底を横断する道路が作られるなど、独特の景観を作り出しています。

山地と平地の境をほぼ南北に総延長38kmにも及ぶ、活断層である関谷断層により、断層の東側に当たる那須野が原は、常に山地に対して沈降し続けています。そのため一般的な扇状地に比べて砂礫層が大変厚く、水を得るのに苦労する土地になっています。そんな扇中央部にも、地下の不透水層の起伏の関係でいくつかの湧水地(出釜)があり、その周辺には縄文の時代から人々の日々の営みもありました。しかし、那須扇状地のほとんどの土地は、保水性に乏しく地下水脈も深いため明治の時代までほぼ手つかずの状態でした。

那須疏水はそんな地質を逆手にとって、蛇尾川を伏越で横断することで工事の期間短縮を図りました。これは、渇水期には蛇尾川の地下水面が著しく低下することを利用したもので、工事は掘削ではなく開削で行われました。那須疏水が作られ、人々が暮らせるようになってからしばらくの後、戦後の揚水設備の技術革新によって豊富な地下水の利用ができるようになりました。こうした人々の知恵と工夫、努力により、かつて不毛の大地であった那須扇状地は、今では豊かな実りある大地へと変貌を遂げました。

那須疏水の旧蛇尾川伏越の出口部分や地下水路に使われた断面が五角形の石組みの一部は、今でも見ることができます。



サンサントワーからの扇頂部



赤田山



出釜の湧水

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	常盤ヶ丘・烏ヶ森の丘・赤田山・箭坪の大輪地ヶ原絵図・那須疏水旧蛇尾川伏越出口
未指定文化財	関谷断層・蛇尾川・津室川湧水地・出釜

【関連文化財群①に関する課題と方針】

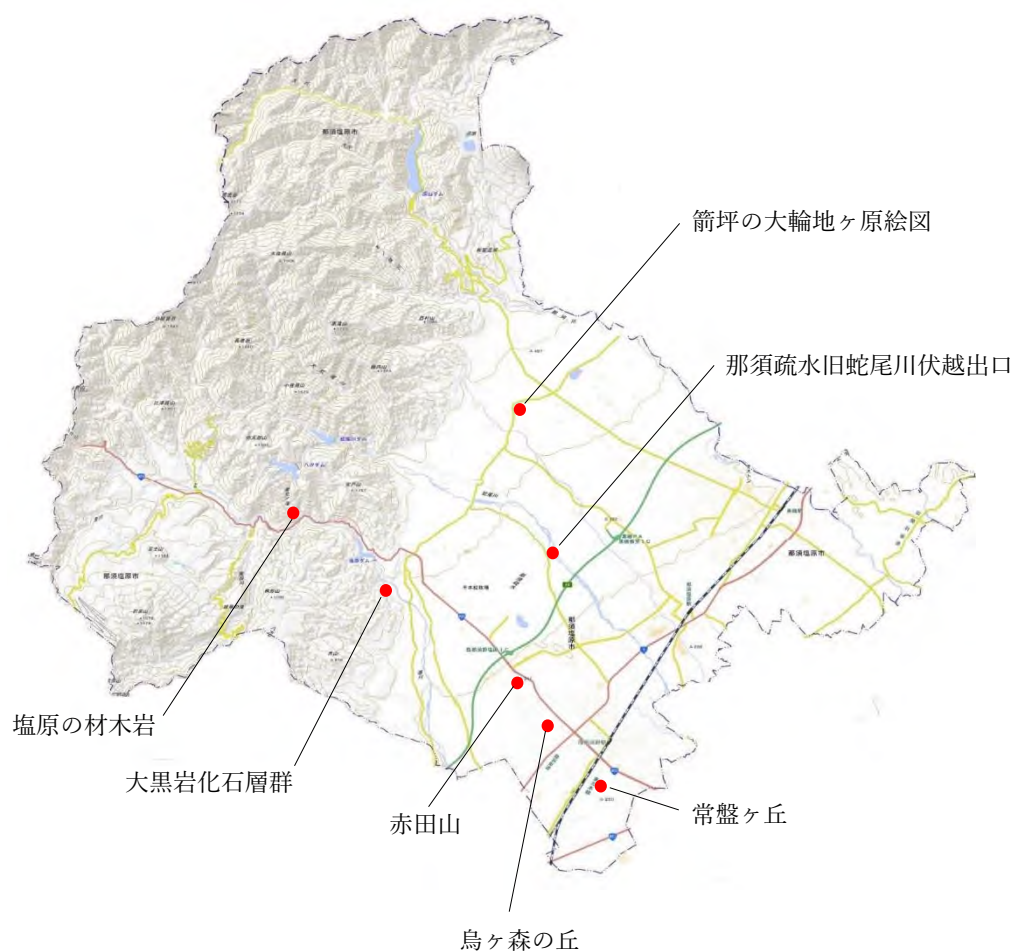
那須疏水の開削に尽力した印南丈作や矢板武らの墓がある常盤ヶ丘や、三島通庸がかつて開拓の構想を練ったとされる赤田山などの市指定史跡については、良好な状態を維持する必要があります。また、化石については、産地であることを活かす取り組みが求められています。

史跡については、良好な状態を維持するため、適切な周期での保存・管理に努めます。また、化石については地域の歴史を楽しく学ぶ機会を提供するため、体験学習の充実を図ります。

【関連文化財群①に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
① - 1	市指定史跡等管理事業(常盤ヶ丘、赤田山) 常盤ヶ丘、赤田山における除草等の管理を所有者等と連携して行う。	行政	市						
① - 2	化石発掘隊(博物館の教育普及活動) 子どもを対象として、化石の発掘体験を行う。	専門	市						

■ 指定等文化財分布図



② 歴史が示す那須塩原～縄文から戦まで～

那須塩原市には縄文中期の大規模集落である槻沢遺跡など数多くの遺跡があり、昔から人々が暮らしていた痕跡があります。鎌倉時代には那須野が原一帯で源頼朝による大規模な巻狩が行われました。江戸時代には各藩・幕府領が入り乱れ、戊辰戦争では塩原や板室、さらに三斗小屋で戦いが繰り広げられた歴史があり、各時代を物語る文化財が市内各地に残されています。

1. 那須塩原市の遺跡分布と立地

平成 26～28 年度にかけて、那須塩原市教育委員会では、市内の遺跡分布調査を実施しその成果は『那須塩原市遺跡分布地図』（以下『遺跡分布地図』という。）にまとめられました。市内には、旧石器時代から中世までの 92 の遺跡があることが確認できました。そこで、『遺跡分布地図』に基づき、市内にある遺跡の年代と分布の特徴について記します。なお、この調査でもれた遺跡があるので併せて記しておきます。『西那須野町の明治以前史』に、石林地内に草刈道下遺跡、乃木農場遺跡が掲載されています。前者は昭和 16 年（1941）開田の際に住居地が確認され、縄文時代の土器が出土していました。後者は石林北東部の那須拓陽高校の乃木農場地内にあり、昭和 37 年（1962）リンゴの苗を植えた時に縄文土器が出土したといえます。

時代別の遺跡数では、縄文時代が約半数を占め、槻沢遺跡や井口遺跡といった縄文中期から後期にかけての大規模集落遺跡があります。次いで、奈良時代・平安時代・古墳時代が多くなっていますが、政治・文化の中心地で出土するような古墳や古代の役所・寺院などの遺跡はなく大部分は集落跡です。なお、弥生時代の遺跡については現在のところ市内では確認はされていません。

遺跡の分布状況は、濃密な分布を示しているのは、黒磯地区では寺子・越堀・鍋掛・沼野田和、西那須野地区では槻沢・二つ室、塩原地区では上塩原・宇都野・金沢・関谷です。

これらの地域は、江戸時代以前から村が成立していた（二つ室は開拓地）ことから、水利の便がよかったと考えられます。鍋掛や槻沢などの遺跡が立地する平地では、湧水地やそこから流れ出る小川がありました。上塩原や宇都野などの遺跡が立地する山麓の地域では、水が流れ出る山間の沢があり、その水を利用することができました。



槻沢遺跡全景



深鉢形土器



槻沢遺跡石組複式炉

山地と明治の開拓で開けたかつて原野であった地域は遺跡が少ないと考えられていましたが、標高 600m 前後の上塩原や板室で遺跡が確認されています。また、明治の開拓で開けた地域においては、那須東原では佐野や戸田、那須西原では上赤田、一区町～四区町・二つ室・下永田などでもわずかながら遺跡の散布地がみられましたが、他の地域に比べると遺跡の数はやはり少なかったです。

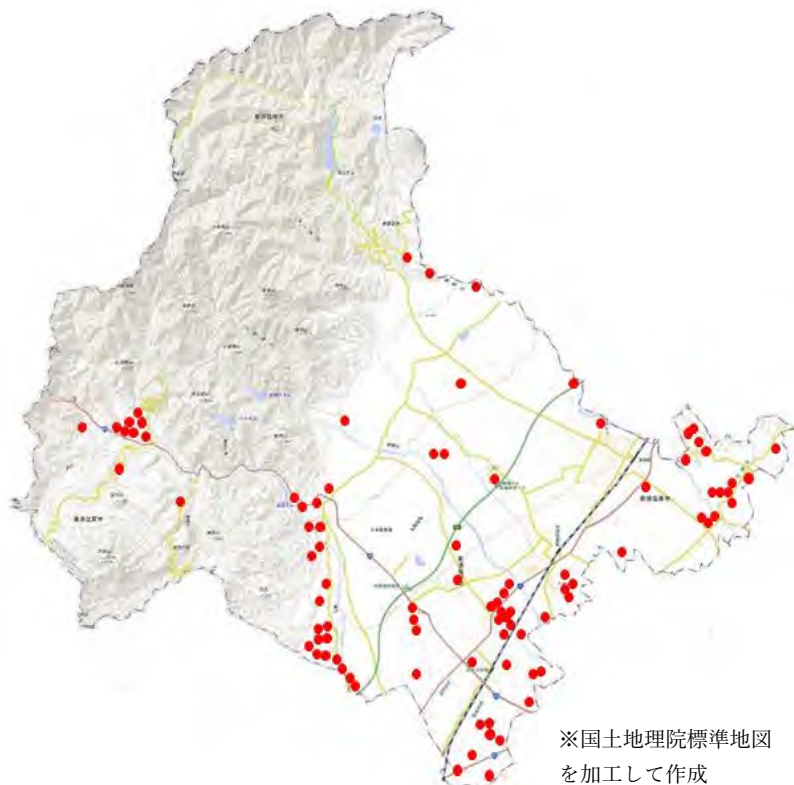
2. 出土した遺構と遺物

槻沢遺跡は、5 回に及ぶ発掘調査が行われ、昭和 52 年（1977）に行われた第 4 次発掘は、広域農道（ライスライン）建設に伴うもので、国指定重要文化財の深鉢形土器や市指定有形文化財の槻沢遺跡

出土の縄文土器など貴重な資料が発見されました。

槻沢遺跡の位置する栃木県北部の地域には、東北系と関東系の土器や遺構が重複して出土する遺跡が多くあります。一方で、両方の地域の要素が混じりあった在地性の強く表れた遺物や遺構もあり、那須地区の縄文中期の遺跡の特色となっています。

■ 那須塩原市の遺跡分布



このことを端的に物語っているのが、国指定重要文化財の深鉢形土器です。大きな袋状土坑(通称「30個ピット」)から、ほぼ同時期に投げ込まれた縄文中期(約4,500年前)の30個分の土器と土器片が出土しました。これらの土器には、関東の阿玉台式土器と東北南部の大木8a式土器が混在しており、当時の文化の交流を裏付ける貴重な資料ということで、国指定重要文化財となりました。

また、北陸の火炎系土器の影響がうかがえる土器、甲府盆地を中心に分布する曾利式土器、中部地方から関東南部に系譜が認められる両耳壺が出土しており、口縁部に鳥頭形把手の付く加曾利E式土器が出土、広域的な文化の交流がうかがえます。

槻沢遺跡の特徴的な遺構としては、縄文中期前葉から後葉中頃にかけて東北地方南部とのつながりが強かったことから、その影響の強い袋状土坑や複式炉などが見られ、縄文後期前葉になると関東地方のつながりが強くなっていくことから、関東の影響の強い敷石住居や土器棺墓などが見られます。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	深鉢形土器(残欠共)・槻沢遺跡・槻沢遺跡出土の縄文土器
未指定文化財	槻沢遺跡出土資料(指定文化財以外)・井口遺跡出土資料
周知の埋蔵文化財	上ノ原遺跡、七間々遺跡、本田遺跡、道東遺跡、小滝遺跡、中山遺跡、中山・清水原遺跡、堂本遺跡、要害遺跡、白戸遺跡、橋本遺跡、松ノ木平遺跡、湯宮遺跡、小丸山遺跡、下の内屋敷跡遺跡、那須東原遺跡、川前遺跡、熊久保遺跡、笹風遺跡、上原北遺跡、回顧橋遺跡、滝沢遺跡、鹿野崎遺跡、長久保遺跡、赤坂遺跡、平場遺跡、大ヌカリ遺跡、東山遺跡、上荒屋上遺跡、上荒屋下遺跡、山城遺跡、寺子遺跡、蛇沢遺跡、塩ノ湯遺跡、西山・上の原遺跡、柿の島遺跡、和田山遺跡、田野城遺跡、玉貫遺跡、黒岩遺跡、自由学園農場遺跡、上の台遺跡、古下遺跡、上の沢遺跡、杉渡土遺跡、上黒遺跡、野沢遺跡(金沢神社裏遺跡)、塚原遺跡、町井遺跡、赤田山北遺跡、下山遺跡、井口遺跡、温泉神社東遺跡、西遅沢遺跡、東遅沢遺跡、西富山遺跡、槻沢北遺跡、稻荷山東遺跡、稻荷山遺跡、稻荷山・沼端遺跡、沼野田和遺跡、大輪地遺跡、前山北遺跡、前山遺跡、前山東遺跡、小勝原遺跡、町井・坂下遺跡、間の沢西遺跡、間の沢遺跡、四区I遺跡、三区I遺跡、太夫塚遺跡、槻沢西遺跡、無線中継所南II遺跡、下永田遺跡、無線中継所南I遺跡、権現山北遺跡、上ノ台遺跡、間の沢下遺跡、間の沢南遺跡、三区II遺跡、二ツ室岳北遺跡、二ツ室岳土壘跡、二ツ室岳南I遺跡、平沢道上遺跡、平沢道下遺跡、緑出釜遺跡、一区I遺跡(a・b地点)、二ツ室岳南II遺跡、蚕金神社前遺跡、一区II遺跡

3. 那須野の巻狩、郡界の攻防～中世の城館～

鎌倉時代の初期、建久4年(1193)4月に源頼朝により、自らの勢力を天下に知らしめるため、広大な那須野が原を中心に、那須野の巻狩が3,000人規模で22日間にもわたって行われました。狩野の地名が残るあたりで行われたと推察されています。

また市域には、塩原地区に3か所(塩原(要害)城跡・狭間城跡・離室城跡)、箒根地区に3か所(田野城跡・野沢(真木)城跡・鳩ヶ森城跡)、鍋掛地区に1か所(杉渡戸要害跡)の計7か所の中世の城館跡が確認されています。城館跡は自然の立地を生かした丘陵地や溪谷地にあり、平安時代末期から室町時代にかけて築造されたものと考えられ、市域西北の山間部に位置していることが特徴です。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	塩原(要害)城跡・鳩ヶ森城跡・野沢(真木)城跡・離室城跡・狭間城跡
未指定文化財	田野城跡・杉渡戸要害跡
その他歴史文化資源	那須野巻狩・上郷屋・南郷屋・東小屋・沓掛

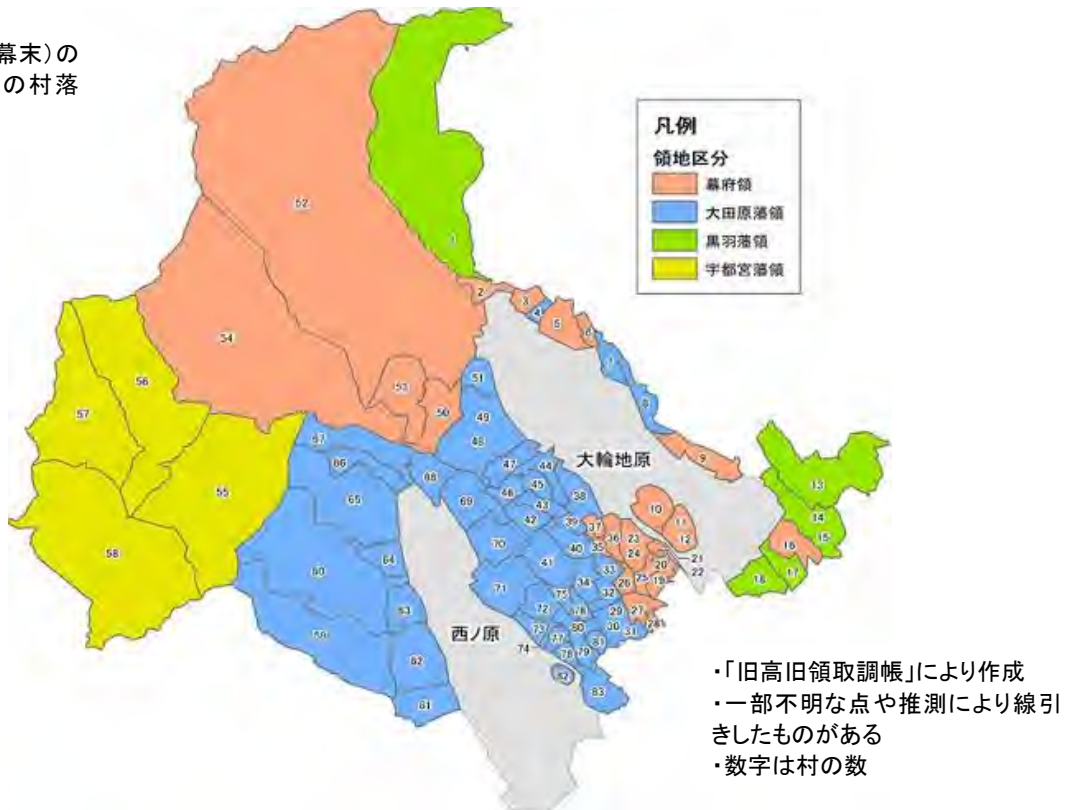
4. 各藩・幕府領が入り乱れた江戸期の支配者

本市域の江戸期は、那須藩領・幕府領・黒羽藩領・大田原藩領・宇都宮藩領に分かれていました。広大な原野であった那須東原は、周辺44か村の入会地(共同利用の土地)で、那須西原は周辺64か村の入会地になっていました。支配の異なる地域では様々な異文化が発展しましたが、江戸期の共通点としては、年貢や法令関係、境界論争関係、助郷関係などの村文書が数多く現存しています。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	城主安全碑・黒羽領境界石・黒磯郷所領安堵状・菊地家市十郎百歳長寿祝文書・関谷の城 鍬舞・上大貫の城鍬舞・室井家の四脚門・数ヶ所の郷蔵・大輪地ヶ原絵図(北弥六、箭坪)
未指定文化財	北弥六室井家文書・渋井家文書・津久井家文書・関谷家文書・浄泉寺文書・白井家文書・ 熊久保家文書・光徳寺文書・箭坪行政区文書・上横林行政区文書・君島家文書

■ 江戸時代(幕末)の
那須塩原市域の村落
と領地区分



5. 那須塩原地区と戊辰戦争

慶応4年（1868）閏4月には大網（16日）、塩野崎（21日）、板室（22日）、関谷（23日）で新政府軍と旧幕府軍の戦いがありました。8月23日には三斗小屋宿において激しい戦いがあり、塩原では旧幕府軍が会津への撤退に際して8月20日と23日に寺社以外を全村焼き払いました。

戊辰戦争では、交通の利便性などから会津中街道が利用されたことによって、多くの沿線集落が戦災に遭い、三斗小屋地区では新政府軍に備えて湯川に胸壁が設置され、大峠には塹壕が掘られました。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	三斗小屋宿跡・板室古戦場・妙雲寺（本堂）・妙雲寺（宮殿）・塩原八幡宮（本殿）・太政官舎朱金札印刷用銅板
未指定文化財	阿久戸の戦死者供養塔・三斗小屋戊辰戦死若干墓・湯川の胸壁・大峠の塹壕・妙雲寺本堂の格天井
その他歴史文化資源	三斗小屋誌・高林郷土史・板室宿・関谷宿・穴沢集落・油井集落・阿久戸集落



三斗小屋宿跡

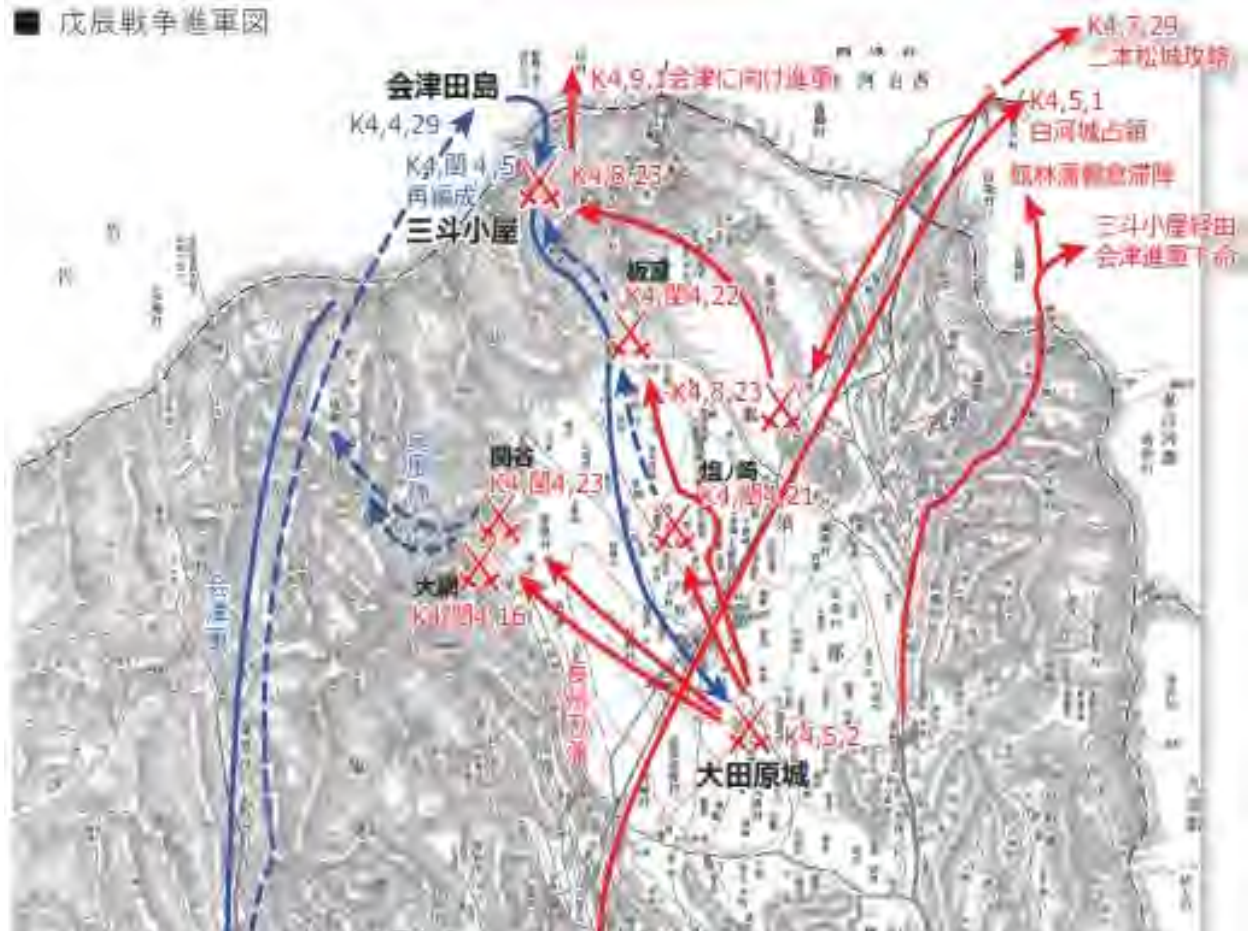


板室古戦場跡



塩原 妙雲寺

■ 戊辰戦争進軍図



※栃木県史編さん委員会『栃木県史』通史編 5 近世二』（昭和 59 年）を参考に作成

【関連文化財群②に関する課題と方針】

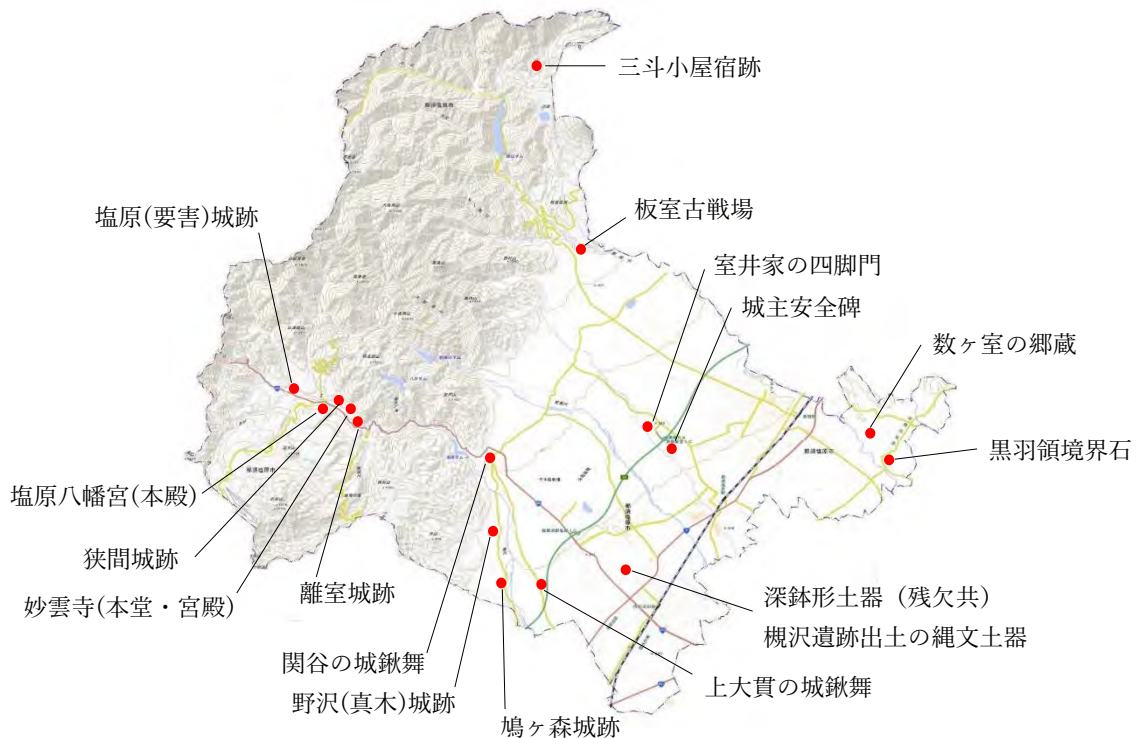
埋蔵文化財については開発等への指導や必要に応じた発掘調査を行う必要があります。土器については、関心を高める取り組みが求められています。市指定文化財ではありませんが、旧黒磯市のころから受け継がれている那須野巻狩まつりについては、今後も継続した開催が求められています。

埋蔵文化財について、開発等への指導とともに、必要に応じ発掘調査等を行います。土器については地域の歴史を身近に感じる機会を提供するため、体験学習の充実を図ります。那須野巻狩まつりについては、その歴史的意義を啓発しながら今後も継続できるよう市担当課や関係団体との連携に努めます。

【関連文化財群②に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
② - 1	埋蔵文化財保護事業 埋蔵文化財包蔵地における開発等への指導とともに、必要に応じ埋蔵文化財の試掘・確認調査及び記録保存のための発掘調査等を行う。	行政	市	→					
② - 2	西那須野土器づくりの会との連携 西那須野土器づくりの会の活動に連携して取り組む。 活動内容：土器づくりを通して縄文時代を学習し、子どもたちに伝える。土器教室を開催する。	団体	団体	→					
② - 3	子ども土器づくり教室（博物館の教育普及活動） 子どもを対象として、縄文土器の作成体験を行う。	専門	市	→					
② - 4	那須野巻狩まつり 源頼朝の那須野巻狩をモチーフにして例年 10 月に開催される那須野巻狩まつりに各団体と連携して取り組む。	行政 専門 団体	市	→					

■ 指定等文化財分布図



③ 関東と東北を結ぶ道～街道と鉄道～

江戸時代には奥州道中や原街道が那須野が原を横断し、元禄 8 年(1695)には、会津藩の主要な道として三斗小屋・板室本村・百村本田・高林・下横林を通る会津中街道が開削されました。明治に入り、塩原新道が開削されると、開拓地は一気に交通の要衝として変貌を遂げます。明治 45 年(1912)には塩原軌道が開通しました。街道と鉄道の歴史は、那須塩原市の経済的発展にも深く関わっています。

1. 奥州道中と鍋掛宿・越堀宿

江戸時代の初期に、徳川幕府によって、幕府五街道の一つとして江戸と奥州を結ぶ奥州道中が開かれました。那須塩原市域には那珂川兩岸に鍋掛宿と越堀宿が設置され、参勤交代の通行などによって文化・経済の発信地となり多くの史跡が点在しています。市域の街道沿線には、江戸日本橋から 41 番目の鍋掛一里塚や 42 番目の寺子の一里塚があり、越堀には宿場の木戸跡の「枿形」が残っています。

■ 主な構成歴史文化資源

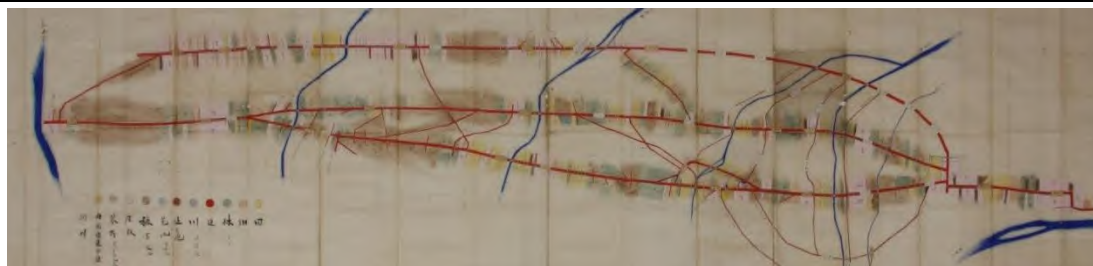
指定等文化財	寺子の地藏尊・寺子のエドヒガン・高久靄厓の墓・越堀の大杉・黒羽領境界石・芭蕉の句碑・鍋掛のイトヨ・正観寺のシダレザクラ・鍋掛の一里塚
未指定文化財	会三寺麻疹地藏・高久靄厓追蹟碑・鍋掛もちつき唄・与一不動像・樋沢不動尊・葛籠石・六十六部供養塔・浄泉寺文書・鍋掛清川地藏・会三寺・浄泉寺・正観寺・富士見峠・越堀宿枿形跡
その他歴史文化資源	鍋掛宿の橋場道

2. 物資運送に利用された原街道（原方街道）

原街道は、正保 2～3 年（1645～46）にかけて会津藩によって藩の廻米や特産物の輸送路として整備され、原街道のほか原方街道・原方道・米積街道などとも呼ばれました。開通時の黒磯村では、24 軒中 12 軒が那珂川渡河地点の原街道沿いに移住して、那珂川土橋の管理や駄賃稼ぎなどに従事しました。市域には東小屋と樋沢に問屋場が設置されましたが、原街道は荷物運送のみの街道で人々の往来が少なかったことから、他の街道に比べて旧所名跡などが少ないことが特徴です。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	原街道絵図・本郷町の馬頭観世音・本郷町のケンボナシ・石林の道標
未指定文化財	東小屋の問屋跡・樋沢の問屋跡
その他歴史文化資源	黒磯街中の旧道



原街道絵図（明治初期）

3. 会津中街道～険しい山越えの道～

元禄 8 年（1695）10 月、奥州道中氏家宿を起点として、那須大峠（1,468m）越え会津若松に至る会津中街道が開通しました。大峠の栃木県側には三斗小屋宿が設置され、街道は山間部のルートであることから、開通当時の旧道や一里塚などの史跡が数多く現存し、市域における一里塚の現存率が高く、保存状態も良好で大変貴重なものです。特に大峠から板室までの区間に旧道が現存し、この区間は令

和元年（2019）に文化庁から「歴史の道 100 選」に認定されました。また、沿線には宿駅が設置されたことから、古文書や道標、石仏類が多く残っていることが特徴で、石仏類では東北由来の「中風封じ」・「道中安全」信仰の青麻三光宮碑が穴沢と木綿畑本田に建立されています。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	三斗小屋宿跡・板室本村の湯本道標・板室古戦場・光徳寺門前の杉並木・一里塚（板室本村東西一対、笹野曾里東西一対、横林東西一対、下大貫一対）
未指定文化財	麦飯坂・早坂の一里塚・板室本村大日堂・百村の一里塚・百村の道標 2 点・百村馬頭観音群・愛宕神社・阿弥陀堂・阿弥陀如来立像・巻川温泉神社・木綿畑新田の道標・高林の一里塚・高林の道標・下ノ内の道標・横林の道標・東泉家文書・穴沢用水堀跡・東福寺・光徳寺
その他歴史文化資源	板室宿・阿久戸のダラダラ坂（旧道）・百村宿



板室宿



百村宿



板室本村の湯本道標

4. 塩原新道の開削

塩原新道（現国道 400 号）と呼ばれたこの街道は、栃木県令三島通庸が西那須野町三島を起点に関谷・塩原温泉・善知鳥沢を経て山王峠に達する計画で整備しました。塩原新道は明治 17 年（1884）10 月に完成し、これにより温泉地としての塩原の名が広く知られる契機になりました。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	鑿道八景・三島通庸の肖像画・関谷常夜灯・関谷の駐蹕碑・関谷の城鍬舞・関谷囃子
未指定文化財	幕府巡検使関係文書（関谷）・愛宕神社

5. 近代那須地区の歴史を大きく変えた東北本線

明治 19 年（1886）宇都宮～黒磯間の鉄道が開通し、明治 24 年（1891）には上野駅から青森駅まで全線が開通になりました。那須塩原市域には、西那須野駅・東那須野駅・黒磯駅の 3 駅が設置され、関東と東北を結ぶ一大動脈として乗降客や貨物輸送などで急速な発展を遂げ駅前が整備されました。

明治 45 年（1912）には「塩原軌道」が開通し、塩原温泉への足として多くの温泉客を運びました。また、大正 7 年（1918）には「東野鉄道」が開通しました。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	塩原軌道塩原口駅舎跡
未指定文化財	黒磯駅貴賓室・新塩原駅舎跡
その他歴史文化資源	塩原軌道路線跡・市内各所の踏切名（大山街道踏切、南小屋踏切、高林街道踏切）



黒磯駅前



黒磯駅前から国道 4 号線へ



塩原軌道 塩原口駅舎

【関連文化財群③に関する課題と方針】

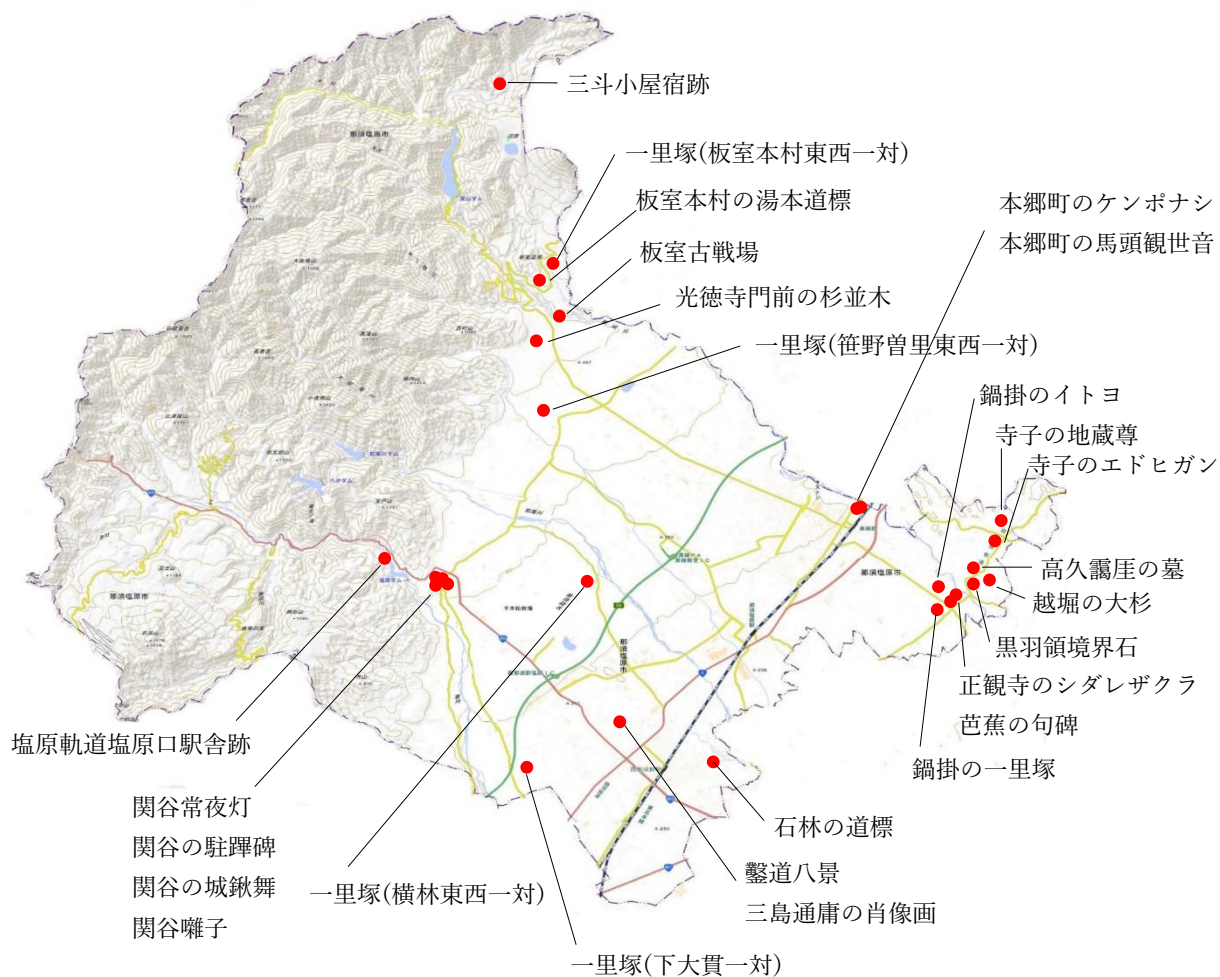
かつての街道を偲ぶ一里塚等の市指定史跡については、除草等の管理を行い、状態を維持する必要があります。また、塩原温泉地区の歴史については、地域住民による研究・活動が行われており、その継続が求められます。

一里塚等の史跡については、良好な状態を維持するため、適切な周期での保存・管理に努めます。また、塩原温泉地区の歴史文化を継承していくために、関係団体との協働を推進していきます。

【関連文化財群③に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
③ - 1	市指定史跡等管理事業(一里塚等) 下大貫の一里塚、笹野曾里西の一里塚、笹野曾里東の一里塚、芦屋道満の解脱塔、境の紅葉、板室本村の一里塚、本郷町の馬頭観世音における除草等の管理を所有者等に委託して行う。	行政	市						
④ - 2	塩原温泉郷土史研究会との連携 塩原温泉郷土史研究会の活動に連携して取り組む。 活動内容：塩原温泉地区に関する郷土史を研究し、書籍や歴史研究書等を発刊し、郷土の歴史を伝える。	団体	団体						

■ 指定等文化財分布図



④ 水の恵みを求めて～疏水と大農場～

那須塩原市の歴史は、開拓の歴史と言っても過言ではありません。水利の乏しいやせた土地で、茫然たる原野が明治初頭まで取り残されてきました。明治に入り、那須野が原が官有原野となり、大規模農場が次々と生まれます。特に華族農場の存在は、国道や鉄道、那須疏水開削というインフラ整備にも多大な影響を及ぼしました。また、華族の別荘は今も残る貴重な文化財です。

1. 江戸時代の新田開発と用水

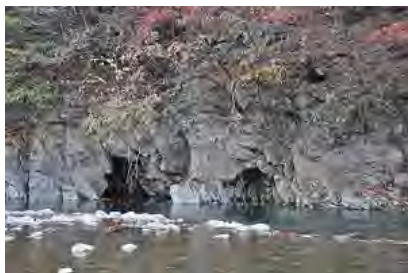
那須野が原においては、那須疏水の前史として江戸時代に新田開発などのための用水開削が盛んに行われました。墓沼用水や新田木ノ俣用水などは現在も使われていますが、多くは廃絶されてしまいました。そうした用水の歴史を物語るものとして、穴沢用水水神祭絵図は水の重要さを伝えるものであり、墓沼用水の現在の頭首工近くには岩を砕いて掘られた旧取水口がみられます。また、各用水跡も残されており、江戸時代に水を求めた歴史を窺うことができます。そうして開けた百村新田・木綿畑新田などでは田に稲穂が育つ光景を見ることができます。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	穴沢用水水神祭絵図・穴沢用水普請供養塔・墓沼用水旧取水口・東小屋村全図
未指定文化財	巻川用水・長島堀跡・長島堀取水口・穴沢用水・山口堀・小巻川用水・護安沢堀・墓沼用水・光徳寺文書・大野家文書・高根沢家文書
その他歴史文化資源	百村新田・木綿畑新田・長嶋新田・上大塚新田・下大塚新田・山中新田



穴沢用水水神祭絵図



墓沼用水旧取水口



墓沼用水

2. 日本三大疏水の一つ那須疏水～大農場を潤す水路～ (*日本遺産那須野が原認定)

那須野が原の用水の歴史は、江戸時代の新田開発によるものや、明治時代に入り殖産興業政策による、地域における物資輸送として発案された大運河構想などがありました。また、那須野が原開拓に伴い、入植者の生活用水の確保として飲用水路が、那須疏水以前に造られています。

安積疏水・琵琶湖疏水とともに日本三大疏水の一つに数えられる那須疏水は、明治18年(1885)4月15日に起工式を挙げ、5か月後の9月15日に通水式を挙行了しました。短期間で完成した要因は、那須扇状地の傾斜と事前の西岩崎取入口の試掘にありました。

西岩崎取入口は、国指定重要文化財に指定された那須疏水旧取水施設であり、明治18年の第一次取入口と明治38年(1905)の第二次取入口、それが元に戻り第三次取入口となり、日本近代化遺産として重要なものとなっています。取入口から16.3kmに及ぶ本幹水路と、那須東原を潤す第一・第二分水とそれに伴う堰があり、那須西原には第三・第四分水が通過し、第四分水は加治屋堀・縦堀・西堀の3路線に分かれます。蛇尾川を横断する蛇尾川伏越は、九州大分の技術が導入されています。

また、那須疏水に関連する史料が那須疏水土地改良区及び那須野が原博物館に保存され、開削当初の状況を知る資料として重要です。さらに、関連として那須疏水起工式が行われた烏ヶ森の丘などの史跡が点在しています。なお、那須疏水は、平成29年(2017)に世界かんがい遺産に登録されました。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	那須疏水旧取水施設(東水門・西水門・導水路及び余水路、東隧道、西隧道) 附指定(疏水橋、1号護岸、2号護岸、東3号護岸、西3号護岸、那須原疏水線實測全図、那須原疏水線建築圖綴、那須原疏水工事竣功説明)・那須疏水旧蛇尾川伏越出口・那須疏水関係文書・那須開墾社関係文書・印南丈作翁屋敷跡・烏ヶ森の丘・常盤ヶ丘・親王台・赤田山・印南丈作の頌徳碑
未指定文化財	那須疏水本幹水路・那須疏水分水堰・那須疏水分水路・飲用水路跡・那須疏水土地改良区文書

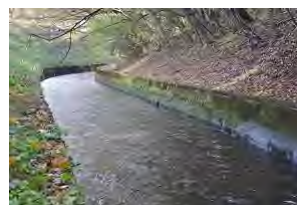
■ 那須疏水路線図



那須疏水旧取水施設
東水門



那須疏水旧取水施設
西水門



那須疏水本幹水路

3. 大農場による開拓 (* 日本遺産那須野が原認定)

那須野が原には那須西原・那須東原を中心に 11,000ha に及ぶ原野が横たわり、明治期に入ると開拓が行われ、40 にのぼる農場が創設され、まさに那須野が原大農場群が創り出されます。それを大きく二つに分けると、地元の有志による農場と東京の華族による華族農場となります。在地農場の最大の農場は 3,000ha を超える那須開墾社で、那須開墾社烏ヶ森農場跡や那須野が原博物館には那須開墾社関係文書が所蔵されています。

一方、華族による農場が東京に近い那須野が原に創設され、40 農場のうち実に 19 農場が華族農場という本州最大の華族農場群が創設されます。松方正義による千本松農場は西洋農具を駆使して欧米式の大農経営を堅持しました。大山巖・西郷従道は加治屋開墾場を興し、のちに分割して大山農場と西郷農場になります。ドイツ翁といわれた青木周蔵は青木農場を創設し、ドイツ貴族の林間農業を実践し、森林の育成に力を入れました。開拓に関連する神社も数多く創建されました。また、農場名を冠した開拓地名が数多く残され、開拓地の特徴となっています。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	印南丈作翁屋敷跡・常盤ヶ丘・親王台・赤田山・那須開墾社烏ヶ森農場跡・那須開墾社関係文書・印南丈作の頌徳碑・三島農場事務所跡
未指定文化財	百間道・三島開墾紀恩碑・熾仁親王植樹記念碑・大山巖国葬墓所・(開拓関連資料)・三島神社・毛利神社・乃木神社・佐野天満宮・母智丘神社・鍋島農場解放記念碑・佐野農場記念碑・下永田の「赤レンガ」建物・阿波開墾記念碑・千本松農場使用のバインダーとレーキ・三島農場史料・佐野農場史料・千本松農場史料・青木農場史料・矢板武関係書簡
その他歴史文化資源	東三島・西三島・三島・永田町・千本松・四区町・三区町・二区町・一区町・北二つ室・二つ室・下永田・埼玉・共墾社・豊浦・渡辺・佐野・青木一区など開拓地名 千本松牧場の牧草地等の景観



那須開墾社烏ヶ森農場跡



親王台



那須開墾社関係文書

4. 華族の別邸（*日本遺産那須野が原認定）

那須野が原の開拓において、華族の存在は大きなものでした。欧州貴族の大土地所有を日本で体現することを夢見た華族にとって、那須野が原は東京に近く、広大な未墾地が広がり、格好の土地所有を実現する大地でした。華族たちは農場の開墾とともに、避暑としての別邸を建設します。現在でも、青木別邸(1888年建設)や松方別邸(萬歳閣・1903年建設)・大山別邸(1905年頃建設)・山縣別邸(1923年移築再建)が残されています。松方別邸の2階は、暖炉がありながら畳敷きであり、大山別邸はレンガ造りの洋館と「薩摩屋敷」と呼ばれる和館からなっています。これらは和洋折衷の建築様式を備えた洋館として貴重な文化財です。別邸としては、華族とともに華族以外の県外農場主や在地農場主も、和風・洋風の別邸を建設し、那須野が原は開拓地の様相とともに避暑地としての様相も加わりました。

こうして、開拓農場主により建てられた別邸が、塩原御用邸や那須御用邸の建設にも関わり、ロイヤルリゾートとして進展して行きました。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	旧青木家那須別邸・乃木希典那須野旧宅・大山記念館洋館・旧塩原御用邸新御座所・大山参道のモミジ並木・乃木神社の樹林・品川弥二郎の旧念仏庵・乃木神社本殿・乃木神社拜殿
未指定文化財	松方別邸・大山別邸和館・松方正義使用の西洋食器と調度品・大山別邸の西洋食器・松方家文書・青木家文書・三島神社・毛利神社・佐野天満宮・母智丘神社・鍋島農場解放記念碑・下永田の「赤レンガ」建物・青木家那須別邸前の参道と裏の翌檜・乃木神社の静沼・大山記念館裏の防風土塁と周りの樹木
その他歴史文化資源	松方別邸の池と銅像台



旧青木家那須別邸



松方別邸(萬歳閣)



大山記念館



旧青木家那須別邸の内部



松方別邸の内部



大山記念館の内部

【関連文化財群④に関する課題と方針】

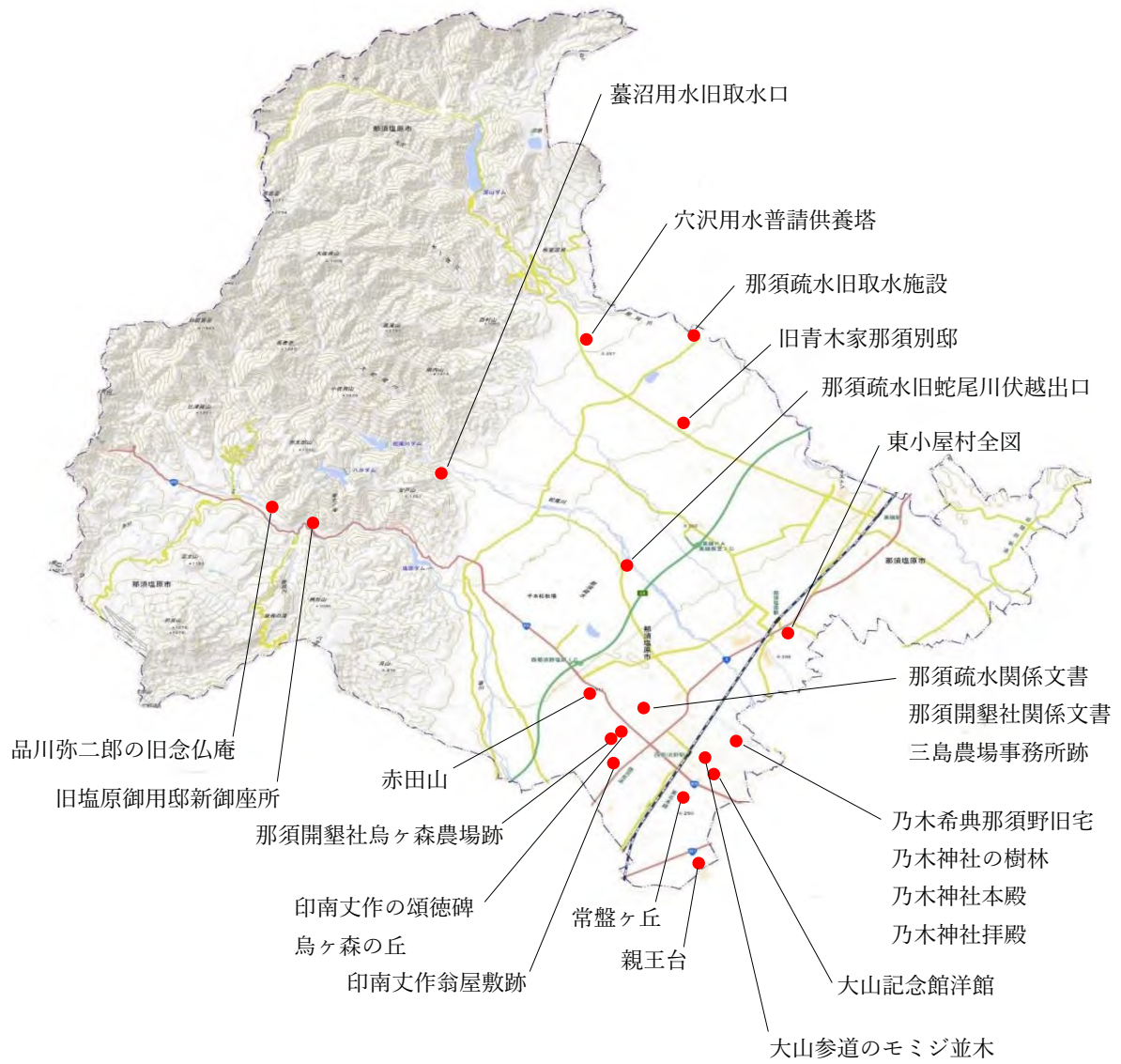
国指定重要文化財である旧青木家那須別邸や那須疏水旧取水施設については、建造物として必要な維持管理を適切に行っていくことが求められます。また、景観の調和が求められる文化財については、その周辺環境まで含めた整備が必要です。松方別邸や大山別邸を含む日本遺産の構成文化財については、観光振興とも連携した活用と情報発信に普及が必要です。

国指定重要文化財である旧青木家那須別邸や那須疏水旧取水施設については、清掃や消防設備、毀損防止のための措置など、良好な状態を維持するための保存・管理に努めます。また、景観の調和が求められる文化財については、都市整備課とも連携し、周辺環境の整備に取り組みます。日本遺産構成文化財については、適正な管理を行うとともに、観光振興とも連携した活用に取り組みます。

【関連文化財群④に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
④ - 1	旧青木家那須別邸維持管理事業 維持管理等に必要な業務（清掃、消防設備管理、電気保守、警備等）を行う。	行政	県・市						
④ - 2	那須疏水旧取水施設維持管理事業 毀損防止のため支障木の伐採等、維持管理を行う。	行政	市						
④ - 3	市指定史跡等管理事業(親王台、常盤ヶ丘、赤田山、赤レンガ) 親王台、常盤ヶ丘、赤田山、赤レンガにおける除草等の管理を所有者等に委託して行う。	行政	市						
④ - 4	都市公園管理業務 都市公園管理業務（指定管理者 シルバー人材センター）の中で、烏ヶ森公園、大山公園、乃木公園の年間を通した除草・清掃作業を実施。	行政 (都市整備課)	市						
④ - 5	旧青木家那須別邸活用 旧青木家那須別邸の適正な管理運営及び積極的な活用を図る。	行政	市						
④ - 6	松方別邸活用 松方家による管理とともに活用について検討する。	行政	市						
④ - 7	大山記念館活用 大山記念館の適正な管理運営及び積極的な活用を図る。	行政	県						
④ - 8	日本遺産魅力発信推進事業 日本遺産「明治貴族が描いた未来~那須野が原開拓浪漫譚~」のストーリーの普及と構成文化財を活用した事業を実施する。	団体	市 (構成4市町)						
④ - 9	日本遺産ガイド 日本遺産ガイド養成講座の受講者が、日本遺産の構成文化財でガイドを行う。	団体	市 (構成4市町)						
④ - 10	ココシル那須野が原の充実 日本遺産の魅力発信及び周遊促進のツールとして活用している観光アプリケーションについて、適宜更新し、情報発信を充実させる。	団体	市 (構成4市町)						

■ 指定等文化財分布図



⑤ 産業と民俗～農村のくらしと文化～

那須塩原市では、葉煙草栽培や養蚕が盛んに行われました。また、昔から馬の産地として知られており、馬のいたくらしが多くの馬頭観音碑などに残されています。そして、自然風土の厳しさを、季節の節目を生かした年中行事や祭礼、芸能などで乗り越えてきました。民俗芸能も、歴史と文化に根付いた貴重なものとして、次の世代につないでいくことが求められます。

1. 那須扇状地の農業とくらしの文化

①畑作が育んだくらしの文化

砂礫層が厚い那須扇状地の扇頂部から扇中央部に位置する那須塩原地域は、畑作として葉煙草栽培が盛んで、明治期の開拓地には、養蚕が導入されました。

厳しい自然風土で生き抜くために、人々は神社やお堂を建て神仏に祈りました。また、家内繁盛・豊作祈願を願う庚申塔や十九夜塔が村の辻や神社の境内に建てられました。槻沢地区には昭和 15 年（1940）建立の「煙草大神」と刻まれた石碑があることが、葉煙草栽培が盛んだった歴史を語っています。養蚕が盛んだった一区町から四区町・太夫塚・赤田にも養蚕神社が残されています。



旧津久井家住宅



数ヶ室の郷蔵



十九夜塔・庚申塔

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	旧津久井家住宅・室井家の四脚門・数ヶ室の郷蔵・寺子の地蔵尊・上黒磯の阿弥陀堂・上大貫地蔵堂「厨子」
未指定文化財	煙草大神碑・蚕金神社・養蚕神社・保食神社・農蚕影神社・庚申塔・十九夜尊・石ぐら（石塚）・淡島神社

②薪炭と馬のいたくらし

葉煙草栽培でも養蚕の桑畑でも、地味の薄い土地での土づくりに木の葉による堆肥づくりが不可欠です。農閑期の晩秋から初春までは、近くの雑木林の木の葉さらいが農家の日課でした。また、雑木林のクヌギが薪炭の材料として貴重でした。開拓農場でも薪炭業が盛んで、明治 18 年（1885）の東北本線開通を機に黒磯駅前に多くの薪炭商が開業し「薪炭の町」と呼ばれるほどでした。県内から出荷される薪炭は「野州炭」と呼ばれ、北那須地域はその主要産地となりました。近隣の農家では、炭俵にする薦編みが農閑期の現金収入としての副業でした。また、薪炭を運ぶ荷馬車の馬も活躍しました。馬のいたくらしの文化は、多くの馬頭観音碑などに残されています。

第二次世界大戦後は、食糧増産のため、一気に開田が進みます。那須野が原でも、電気揚水により地下水をくみ上げる揚水ポンプを設置した小屋が目立つようになります。こうして、戦後から一気に水田化が進み、県北の穀倉地帯となるとともに、明治期の開拓から戦後開拓により、現在、生乳産出額本州一となり、酪農地帯へと姿を変えました。



雑木林



東赤田の馬頭観音群



揚水ポンプ

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	本郷町の馬頭観世音・九尾の狐大絵馬・生駒神社の絵馬・鶏鳥神社の絵馬
未指定文化財	赤田の馬頭観音・高福寺の馬頭観音像群・軍馬慰霊碑・生駒神社・鶏鳥神社・揚水ポンプ

2. 地域の絆とともに豊作祈願・家内安全を祈る郷土の芸能

水と闘い土と闘ってきた那須扇状地の扇頂部から扇央部では、自然風土の厳しさを、季節の節目を生かした年中行事や祭礼、そして、芸能などで乗り越えてきました。三本木地区の延命地蔵堂の境内で舞う三本木の獅子舞は、獅子舞奉納を一時中断した際、隣村の下大塚新田とともに伝染病に襲われ下大塚新田が廃絶したため、小来川村（現日光市）の文挾流獅子舞を伝授したと伝えられます。今は中断していますが、木綿畑本田の獅子舞も、昭和41年（1966）に後継者不足で休止したところ、新木ノ俣隧道の集団ガス中毒で多くの犠牲者を出したので、慰霊と地域意識再生を願い復活したそうです。

箒根神社の祭礼で行われる梵天上げは、地域の若い衆が中心になって行います。鎮守の杜に響く笛太鼓や神楽も若い衆が演じ若い衆が舞いました。社会環境が大きく変わって生活様式や地域意識も変化した現在、くらしの中で培われてきた民俗芸能は消えつつありますが、民俗芸能の由来や伝承をよく見れば、一時中断しては復活する歴史を繰り返してきたのです。

いつの世も、地域を思う人たちがいて新たな地域文化が創造されます。巻狩まつりやらくりん座の演劇、そして、地域の子もたちが叩く創作太鼓の音にも、民俗芸能を育んできた伝統を生かした郷土の誇りが込められて、次世代につなぐ可能性を示しています。



三本木の獅子舞



関谷子供囃子



上塩原源太踊り

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	百村の百堂念仏舞・関谷の城鍬舞・上大貫の城鍬舞・塩原平家獅子舞・遅沢ばやし・西富山の獅子舞・関谷囃子・上塩原源太踊り・上塩原古代獅子舞・三本木の獅子舞・木綿畑新田の太々神楽・木綿畑本田の獅子舞・高林の獅子舞・嶽山箒根神社梵天上げ・墓沼もちつき・穴沢の獅子舞衣装・用具一式
未指定文化財	那須野ヶ原疏水太鼓・鍋掛もちつき唄・東那須野おはやし・子ども疏水太鼓・太夫塚八木節笠踊り・つきの木もちつき唄・那須苗取り田植唄・三島ばやし・大山八木節笠おどり・関谷子供囃子・宇都野子供獅子舞・塩原温泉まつりお囃子・流響塩原太鼓・黒磯巻狩太鼓・巻狩踊りお囃子・埼玉子供おはやし・愛宕神社の強飯式

【関連文化財群⑤に関する課題と方針】

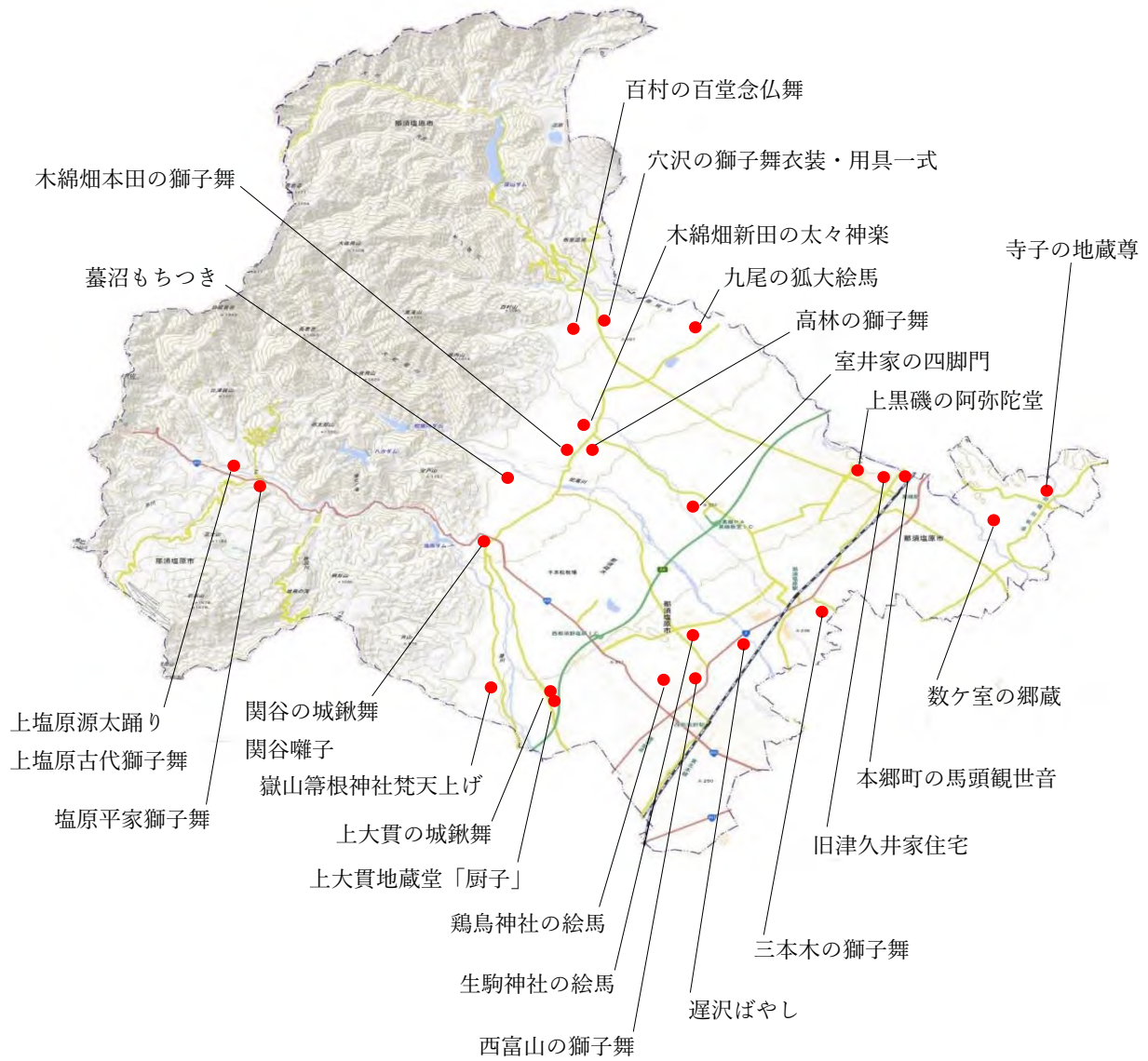
郷土の芸能やくらしの文化については地域住民の方々の手により保存・継承されていますが、高齢化や新規会員の不足により、存続が困難になっている団体もあり、今後の継続が課題です。

地域の昔話やくらしについて研究・活動している団体との協働を推進し、地域の歴史文化の継承に努めるとともに、地域の子どもたちに歴史を楽しく学ぶ機会を提供するため、体験学習の充実を図ります。また、郷土芸能保存団体が、担い手の育成や技術を継承していけるように、発表会等の開催や、道具の整備等、活動の支援を行います。

【関連文化財群⑤に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
⑤ - 1	津久井家住宅維持管理事業 茅葺屋根の修理や燻蒸等、維持管理を行う。	行政	市						→
⑤ - 2	那須地区郷土芸能フェスティバル 那須地区における郷土芸能を保存継承する団体が一堂に会し、代々受け継がれてきた郷土芸能を披露するイベントを開催する。	行政 (近隣自治体) 専門 団体	市 (構成3 市町)						→
⑤ - 3	開こん記念祭 明治 18 年に那須疏水の開削起工式が執り行われたのを記念して、那須野が原開拓の歴史を継承するために子どもから大人を対象として記念祭を開催する。	行政 専門 団体	市						→
⑤ - 4	なすの機織の会との連携 なすの機織の会の活動に連携して取り組む。 活動内容: 機織りを学びながら、子どもたちに体験指導を行う。	団体	団体						→
⑤ - 5	語り部炉ばたとの連携 語り部炉ばたの活動に連携して取り組む。 活動内容: 昔ばなしの語りとして、地域の昔話や伝説を市民に伝える。	団体	団体						→
⑤ - 6	いろりの会との連携 いろりの会の活動に連携して取り組む。 活動内容: 黒磯郷土館案内ボランティアとして、昔のくらしや農具などの説明を実施する。	団体	団体						→
⑤ - 7	郷土芸能保存団体（指定団体）への支援 地域の伝統芸能の保存・継承のため、記録や道具の整備、情報発信等の支援を行う。	団体	団体						→
⑤ - 8	郷土芸能保存団体（未指定団体）への支援 地域の伝統芸能の保存・継承のため、活動の支援を行う。	団体	団体						→
⑤ - 9	子どもはたおり教室（博物館の教育普及活動） 子どもを対象として、機織り機でマフラーを製作する教室を開催する。	専門	市						→
⑤ - 10	昔のくらし体験（博物館の教育普及活動） 子どもを対象として、黒磯郷土館での体験事業を行う。	専門	市						→

■ 指定等文化財分布図



⑥ 温泉が生み出す文化～信仰・文学・芸術～

那須塩原市の特徴の一つとして、塩原・板室・三斗小屋の温泉群の歴史があります。1200年の歴史を有し、文豪も多く訪れた塩原温泉。古くから湯治の里として親しまれる板室温泉。標高1,500mの高地に位置する三斗小屋温泉。特に、三斗小屋温泉は白湯山信仰による湯宿としても賑わい、三斗小屋宿には、山岳信仰の石造物が現在も残っています。

1. 1200年の歴史を有する塩原温泉

塩原温泉は、市内西部の山間地の箒川上流域に位置します。平安時代の大同元年（806）に発見されたと伝えられる塩原温泉は、地区ごとに泉質も異なり、箒川の溪谷に沿って11の温泉地が連なり、「塩原温泉十一湯」と呼ばれてきました。近世初頭の元湯は、湯宿37軒があり「湯本千軒」と呼ばれるほどに発展し、下塩原温泉では、江戸時代の安永4年（1775）に5,000人を超える入湯者があったという記録があります。各温泉地には、それぞれに温泉神社が祀られて地元民や来湯者の祈願所でしたが、社殿の彫刻類は繊細で見事な物ばかりで温泉地の盛況ぶりが窺えます。

明治時代になると、塩原新道の開削により交通の便が格段に良くなって皇族をはじめとする華族や政治家、文化人などが塩原を訪れ、御用邸や別荘が建てられました。そして、多くの近代文学のリーダー達がこぞって訪れ、塩原温泉独特の文化的発展を遂げました。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	塩原温泉元湯古絵図・温泉神社石幢・新湯温泉神社（本殿）・畑下温泉神社（本殿）・塩の湯温泉神社（本殿）・茗荷温泉神社（本殿）・福渡温泉神社（本殿）
未指定文化財	実朝桜・旧塩原御用邸正門・旧塩原御用邸石垣・明賀屋太古館・塩原温泉まつり・新湯の噴気
その他歴史文化資源	とて馬車



塩原温泉門前全景



塩原福渡温泉全景



塩原新道「白雲洞トンネル」

2. 板室温泉と三斗小屋温泉

板室温泉は、康平2年（1059）那須三郎宗重が発見したと伝えられる、那珂川支流の湯川沿いの山峡に開けた湯治場です。古くから那須七湯の一つに数えられ、江戸時代にはすでに温泉の効能から「下野の薬湯」と呼ばれて、現在も湯治の里として親しまれています。

板室温泉は、別名「塩沢温泉」とも呼ばれ、昭和46年（1971）には環境省から「国民保養温泉地」に指定されました。平成5年（1993）には、国民保養温泉地の中で、特に自然とのふれあいを通じ、保養に適した温泉地として、環境省から「ふれあい・やすらぎ温泉地」にも選定されました。

三斗小屋温泉は、康治元年（1143）奥州信夫郡信夫村の生島某の発見によると伝えられ、朝日岳西側の山腹で標高1,500mの高地に位置しています。白湯山信仰による参詣者の湯宿としても賑わい、江戸時代末期までは大変に盛況でしたが、明治時代には衰退し、現在は2軒の湯宿があります。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	板室温泉「温泉記」・板室本村の湯本道標・加登屋旅館本館・加登屋旅館別館・加登屋旅館愁仙閣・板室温泉神社本殿・三斗小屋温泉神社本殿
未指定文化財	三斗小屋温泉大黒屋本館・大田原城主寄贈石灯笼一对（板室温泉神社）・籠岩神社・乙女の滝・矢沢の滝



板室温泉



板室温泉 綱湯



三斗小屋温泉

3. 温泉と芸術～文豪と美術家～

明治時代になると、塩原温泉への交通の便が良くなり華族をはじめ文学者や美術家などが多く訪れ、塩原温泉へ別荘を構えた奥蘭田は、塩原の風俗、古跡、伝説、温泉等を紹介した『塩溪紀勝』を執筆し、尾崎紅葉は塩原を訪れた後、『続々金色夜叉』を執筆しました。そのほか夏目漱石・国木田独歩・田山花袋・森田草平・徳富蘆花・斎藤茂吉・与謝野鉄幹・与謝野晶子・平塚雷鳥・川瀬巴水など多くの文人や画人が何度も訪れて様々な作品を残し、温泉地内の各所には文学碑や記念碑が建てられています。

■ 主な構成歴史文化資源

未指定文化財	塩原を題材とした文学作品・川瀬巴水作品・刑部人の作品・文学碑・記念碑
--------	------------------------------------

4. 山岳信仰～白湯山・黒滝山・嶽山～

白湯山は、茶臼岳の西側下方八合目付近の温泉湧出源「御宝前の滝」を御神体とする山岳信仰で、「はくとうさん」または「はくゆさん」、那須温泉側では「高湯山」と呼ばれていましたが、現在は全く行われていません。白湯山入口の三斗小屋宿には、信仰者が寄進した多くの石造物などが現在も残っています。特に水垢離場（石造）や石鳥居は、山岳信仰の特徴的な遺物であり大変貴重なものです。

黒瀧山信仰は、鳴内の大日如来を起点として、大蛇尾川上流の黒滝山頂までの山中の滝や奇岩、大岩など24の札所を回り、2日間を要して険しい山中に挑む信仰登拝でした。現在は信仰登拝が行われず、5月の第3日曜りと9月の第3日曜日に黒瀧山大日尊で念仏による供養祭が行われています。

嶽山信仰は、奈良時代から栄えた「高原山」信仰の流れで、現在は県内でもめずらしい梵天奉納の行事が行われています。以前は旧暦10月19日でしたが、現在は11月23日に行われています。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	黒瀧山大日尊・嶽山箒根神社奥の院（本殿・他2社）・嶽山箒根神社高清水（遥拝殿）・嶽山箒根神社梵天上げ・嶽山箒根神社の大杉・板室本村の大日如来座像
未指定文化財	白湯山石灯笼・白湯山石鳥居・三斗小屋宿の大日如来座像・白湯山シズが平の石仏群・水垢離場・板室本村白湯山石碑・板室本村白湯山石灯笼・室井家文書・板室本村大日堂・黒瀧山大日尊清水・黒瀧山姥神像（黒瀧山信仰第9番札所）
その他歴史文化資源	黒瀧山念仏



白湯山石鳥居（三斗小屋宿）



黒瀧山大日尊

【関連文化財群⑥に関する課題と方針】

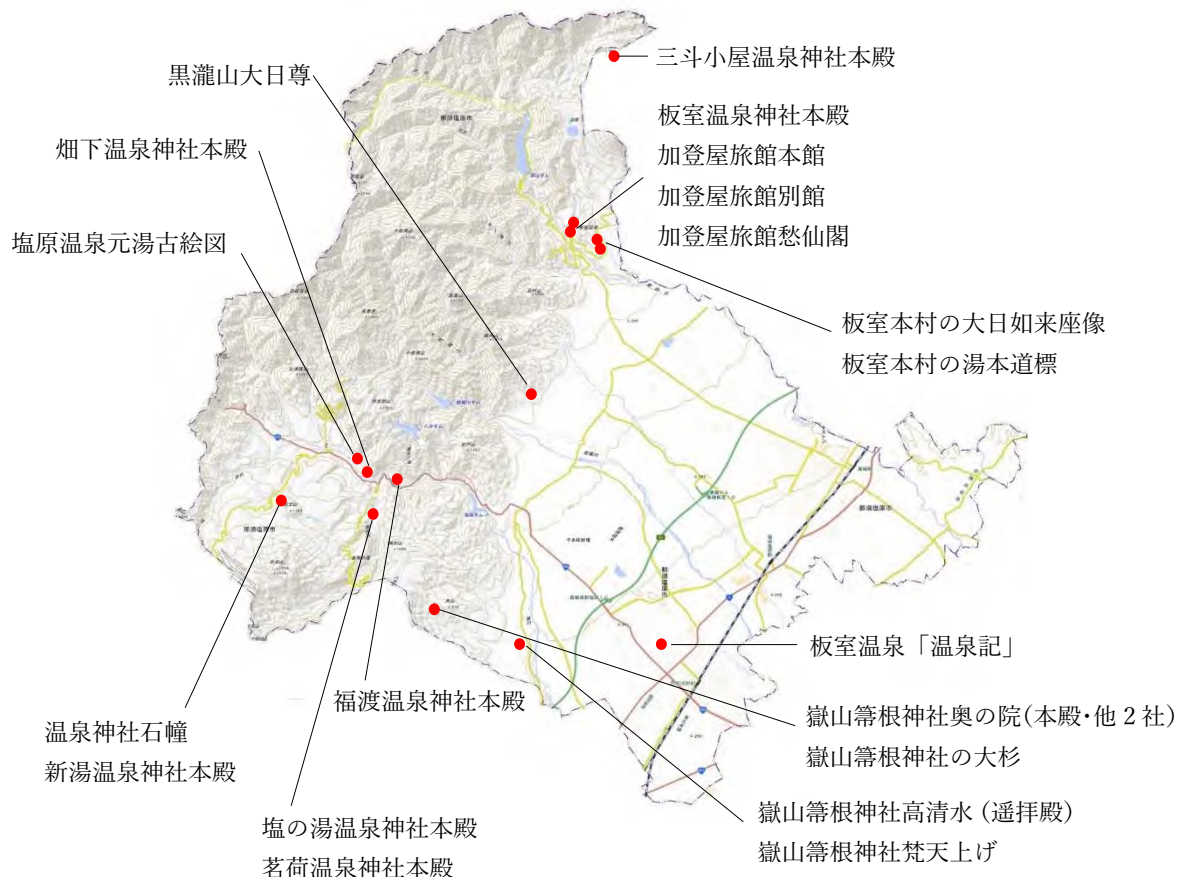
市指定史跡である三斗小屋宿跡では、近年外来種の植物が生息し、その範囲を広げていることから、これ以上の拡散を防止するため、駆除する必要があります。また、多くの文人や画人が訪れた塩原温泉には、その歴史を活かし、文学を中心にガイドや講話等を実施している団体があり、その継続が求められます。

三斗小屋宿跡については、環境省や市環境課と連携し、外来種の植物の駆除活動に取り組みます。また、塩原地区の文学を研究し、講話や文学碑等を活用した取り組みを行っている関係団体との協働を推進していきます。

【関連文化財群⑥に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
⑥ - 1	三斗小屋宿跡オオハングソウ駆除活動 環境省日光国立公園那須管理官事務所、ボランティア（那須山岳会等）と共に、三斗小屋宿跡地に生息するオオハングソウ（植物、特定外来生物）の駆除活動を実施。	市 （環境課）	市						
⑥ - 2	塩原文学研究会との連携 塩原文学研究会の活動に連携して取り組む。 活動内容：塩原地区の文学碑等の案内を実施する。塩原文学研究と文学散歩ガイド、講話を実践する。	団体	団体						

■ 指定等文化財分布図



2 文化財保存活用区域

文化財保存活用区域とは、文化財が特定の範囲に集積している場合に、当該文化財（群）をその周辺環境も含めて面的に保存・活用するために設定するものです。そこで、本市の歴史文化資源が特に集積していること、行政による施策が図られていること、地域住民による調査研究やボランティア活動が盛んなことを基準に、次の3つの区域を設定しました。



(1) 黒磯駅から板室温泉区域

黒磯駅周辺から板室温泉までの板室街道沿いには、皇族のために設けられた黒磯駅の貴賓室、黒磯銀行本店として大正7年(1918)に建築された高木会館(国登録有形文化財)、明治時代にドイツ公使や外務大臣を務めた青木周蔵の別邸であり日本遺産の構成文化財でもある旧青木家那須別邸(国指定重要文化財)、近代における大規模水利施設の取水システムの構造を知る上でとても貴重な建造物である那須疏水旧取水施設(国指定重要文化財)、古くから湯治場として親しまれた板室温泉でかつての湯治場の雰囲気の色濃く残す加登屋旅館(国登録有形文化財)など多くの文化財があります。また、黒磯駅前に令和2年度に開館した那須塩原市図書館「みるる」には、この地域の歴史文化に関する貴重な書籍や資料が多く収蔵されています。歴史文化に関する企画展示、郷土資料コーナーや日本遺産コーナーの設置など、地域の歴史文化に関する紹介も充実しています。また、板室街道沿いは、奈良美智の作品展示スペース「N's YARD」や菅木志雄の作品を常設展示している「菅木志雄倉庫美術館」など現代アートに関する資源も充実している区域です。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	高木会館（国登・建）※・黒磯町道路元標（市・史）・旧津久井家住宅（市・建）・上黒磯の木造阿弥陀如来立像（市・彫）・上黒磯の阿弥陀堂（市・建）・上黒磯の板碑（市・歴）・旧青木家那須別邸（国指・建）・那須疏水旧取水施設（国指・建）・九尾の狐大絵馬（市・民）・穴沢用水普請供養塔（市・歴）・穴沢の獅子舞衣装・用具一式（市・民）・百村の百堂念仏舞（国選・民）・光徳寺門前の杉並木（市・天）・板室古戦場（市・史）・板室本村の銅造大日如来坐像（市・彫）・板室本村の湯本道標（市・史）・板室本村の一里塚（市・史）・加登屋旅館本館（国登・建）・加登屋旅館別館（国登・建）・加登屋旅館悠仙閣（国登・建）・木ノ俣地藏（市・史）
未指定文化財	黒磯駅貴賓室・愛宕神社（百村）・巻川温泉神社・板室本村大日堂・阿弥陀如来立像・黒磯巻狩太鼓・巻狩踊りお囃子・巻川用水・長島堀跡・長島堀取水口・穴沢用水・小巻川用水・百村の一里塚・百村の道標・百村の馬頭観音群・青木家那須別邸前の参道と裏の翌檜・東福寺・光徳寺・乙女の滝・矢沢の滝
その他歴史文化資源	黒磯街中の旧道・百村宿・板室宿

※（指定・種別）を記載。（2）、（3）の指定等文化財についても同様

【区域(1)に関する課題と方針】

黒磯駅の貴賓室や高木会館、加登屋旅館、現代アートに関する資源などは民間団体や所有者により適切に維持管理されていますが、旧青木家那須別邸や那須疏水旧取水施設については、行政の管理下にあることから、市として良好な状態を維持管理していく必要があります。また、旧青木家那須別邸については、アート作品の展示やコンサートの開催等、イベント実施の需要が近年高まっていますが、文化財であることに配慮した開催方法等、適切な対応が求められます。

旧青木家那須別邸、那須疏水旧取水施設については、良好な状態を維持するため、適切な周期での保存・管理に努めます。特に、那須疏水旧取水施設は草木が生い茂る那須疏水公園内にあることから、市農林整備課とも連携し、定期的な剪定等を実施します。また、旧青木家那須別邸でのイベント等の開催にあたっては、関係者と十分に連携し、国指定重要文化財であることに配慮した適切な開催に努めます。

【区域(1)に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
(1)-1	農村公園管理事業 那須疏水旧取水施設のある那須疏水公園の草刈りや剪定を年3回程度、循環式トイレの点検を2か月に1回実施するなど、那須疏水公園を維持管理する。	行政 (農林整備課)	市						
(1)-2	旧青木家那須別邸でのイベント等の開催協力 旧青木家那須別邸を会場とした各種イベント等について、文化財であることに配慮し、適切に開催ができるよう協力する。	行政 団体 市民	市						

※維持管理や活用などの措置については、全体の措置（第5章4節）、関連文化財群の措置（第6章1節）にも記載有り。

（2）博物館を中心とした三島区域

三島区域には、三島農場事務所跡（市指定史跡）や三島神社、母智丘神社、ボーイスカウト那須野営場などの三島農場関連史跡や施設があります。本市の歴史文化の収集・調査・普及の拠点である那須野が原博物館には、深鉢形土器（国指定重要文化財）や槻沢遺跡出土の縄文土器（市指定考古資料）、絵画や古文書、考古資料など多様な指定等文化財が収蔵されており、年間を通じて企画展・特別展を開催

しています。また、市内の文化財関係の研究・活動団体の活動拠点にもなっており、那須地域をフィールドとした独自の調査研究や、子どもを対象とした歴史文化資源の解説など、ボランティアによる活動も積極的に行われています。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	三島農場事務所跡（市・史）・深鉢形土器<残月共>（国指・考）・槻沢遺跡出土の縄文土器（市・考）・関根の板碑（市・考）・那須疏水関係文書（市・古）・那須開墾社関係文書（市・古）・板室温泉「温泉記」（市・古）・三島通庸の肖像画（市・絵）・三島弥太郎の肖像画（市・絵）・鑿道八景（市・絵）・紙本墨画 山水図（市・絵）・絹本淡彩 夏暁山水図（市・絵）・絹本墨画 松溪曳杖図（市・絵）・西園雅集図屏風（市・絵）・桐花に鳳凰図（市・絵）・菊鷄図（市・絵）・平家物語 小督と仲国（市・絵）・かそのジサマ（市・彫）・鶏鳥神社の絵馬（市・民）・赤田山（市・史）・那須開墾社烏ヶ森農場跡（市・史）・印南文作の頌徳碑（市・歴）・烏ヶ森の丘（市・史）・印南文作翁屋敷跡（市・史）
未指定文化財	三島神社・母智丘神社・保食神社・三島開墾記念碑・那須野が原博物館所蔵の古文書・那須苗取り田植唄・三島ばやし

【区域(2)に関する課題と方針】

三島農場関連史跡や施設については、その歴史を語り継ぐとともに、良好な状態を維持する必要があります。また、那須野が原博物館については、本市の歴史文化の拠点としての整備はもちろんですが、郷土の歴史や伝統の継承、普及活動に関する取り組みが求められています。

史跡や施設については、良好な状態を維持するため、関係団体との連携に努めます。また、地域の歴史や伝統を楽しく学ぶ機会を提供するため、博物館による体験学習の充実を図ります。

【区域(2)に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
(2)-1	石ぐら会との連携 石ぐら会の活動に連携して取り組む。 活動内容：那須野が原博物館の学校見学案内・体験指導を通して、子どもたちに開拓の歴史を伝える。	団体	団体						→
(2)-2	那須野が原西部田園空間博物館運営協議会との連携 那須野が原西部田園空間博物館運営協議会の活動に連携して取り組む。 活動内容：「那須野が原西部田園空間博物館」の管理・運営や様々な普及活動を行う。西那須野地区の6つのコミュニティ（西、狩野、三島、中央、大山、南）と塩原の横林・接骨木地区（横接地区コミュニティ）と関係団体で組織。 ※総合案内所は那須野が原博物館に併設。	団体	団体						→
(2)-3	サテライト清掃活動（那須野が原西部田園空間博物館協議会※各地区コミュニティ） サテライト（※那須野が原西部地区の豊かな自然や疏水・開拓にまつわる史跡などを展示物に見たてている）の清掃活動を行う。	団体	団体						→
(2)-4	小学生サテライト絵画展（那須野が原西部田園空間博物館協議会） 那須野が原西部地区田園空間博物館の対象エリアになっている西那須野地区の小学校6校と横林小学校の高学年の児童を対象にサテライト絵画の募集を行い、博物館等で絵画展を開催する。	団体	団体						→

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
(2)-5	那須文化セミナー（博物館の教育普及活動） 成人を対象として、歴史・民俗・考古・美術・文学から1つのテーマを取り上げ、セミナーを開催する。	専門	市						
(2)-6	親子昆虫教室（博物館の教育普及活動） 親子を対象として、昆虫採集と標本作成を行う。	専門	市						
(2)-7	夏休み科学教室（博物館の教育普及活動） 子どもを対象として、物理・化学系のテーマの教室を開催する。	専門	市						
(2)-8	なはくアートプロジェクト（博物館の教育普及活動） 子どもを対象として、美術作家によるワークショップを開催する。	専門	市						
(2)-9	親子体験チャレンジ（博物館の教育普及活動） 親子を対象として、年12回の物づくり教室を開催する。	専門	市						
(2)-10	博物館フェスタ（博物館の教育普及活動） 例年11月3日(文化の日)に博物館においてイベントを開催する。	専門	市						
(2)-11	地域研究発表会（博物館の教育普及活動） 地域研究に関する研究成果の発表会を開催する。	専門	市						

※那須野が原博物館に関する措置については、全体の措置（第5章4節）、関連文化財群の措置（第6章1節）にも記載有り。

（3）塩原温泉区域

塩原地区は古くから温泉地として栄え、明治時代には、華族や政治家、文人・名士が長期滞在し、また、別荘を設けました。大正天皇が皇太子時代に造営した旧塩原御用邸新御座所（県指定建造物）や寿永3年(1184)に草庵を結び元文5年(1740)に再建された妙雲寺（市指定建造物）、柱状節理が見事な材木岩（市指定天然記念物）や推定樹齢が約1,500年とされている逆杉（国指定天然記念物）などこの地ならではの指定等文化財があり、上塩原源太踊りや古代獅子舞などの無形民俗文化財も伝承されています。また、約1,000万年前の貝化石や約30万年前の植物化石などが保存のよい状態で多く見つかることから高く評価され、多くの研究者達が訪れたり専門書や教科書に取り上げられたりしており、高原火山の溶岩台地や関谷の断層地形など、地質学上の多くの注目すべき特徴があります。また、塩原もの語り館や塩原温泉ビジターセンター、木の葉化石園など観光施設もあり、現在も多くの観光・宿泊客が訪れる区域です。郷土史等の研究やまちめぐりツアーのガイドなど地域住民による活動も盛んです。

■ 主な構成歴史文化資源

指定等文化財	塩原の材木岩（市・天）・福渡温泉神社（本殿）（市・建）・旧塩原御用邸新御座所（県指・建）・高尾塚碑（市・歴）・離室城跡（市・史）・畑下温泉神社（本殿）（市・建）・妙雲寺（本堂）（市・建）・妙雲寺（宮殿）（市・建）・妙雲寺薬師堂（市・建）・妙雲寺の塩溪文庫（旧閻魔堂）（市・建）・品川弥二郎の旧念仏庵（市・建）・塩原温泉元湯古絵図（市・歴）・妙雲尼塔の大杉（市・天）・狭間城跡（市・史）・塩原八幡宮（本殿）（市・建）・塩原八幡宮棟札（市・歴）・塩原平家獅子舞（県指・民）・逆杉（国指・天）・上塩原箒根神社（本殿）（市・建）・上塩原古代獅子舞（市・民）・上塩原源太踊り（市・民）・塩原（要害）城跡（市・史）・引久保百観音堂（市・建）・引久保百観音及び三尊仏（市・彫）・引久保百観音棟札（市・歴）
未指定文化財	明賀屋太古館・塩原を題材とした文学作品・川瀬巴水作品・文学碑・記念碑・宇津野子供獅子舞・塩原温泉まつりお囃子・流響塩原太鼓・旧塩原御用邸石垣・塩原湖成層・木の葉化石園化石産出露頭・箒川要害公園露頭・塩原の天狗岩・回顧の滝・連珠の滝・竜化の滝・布滝・雄飛の滝・魚留の滝・実朝桜・新湯の噴気
その他歴史文化資源	とて馬車・塩原軌道路線跡

【区域(3)に関する課題と方針】

旧塩原御用邸新御座所のある塩原温泉天皇の間記念公園については、文化財周辺の景観という観点からも、公園全体を良好な状態で維持する必要があります。また、塩原温泉区域の歴史文化を後世に受け継いでいくためには、塩原温泉まちめぐり案内人の会による歴史文化に関するガイドツアーや、塩原文学研究会や塩原温泉郷土史研究会の研究活動はとても重要であり、その活動の継続が求められます。

塩原温泉天皇の間記念公園については、良好な状態を維持するため、塩原支所産業観光建設課と連携し、適切な施設管理に努めます。また、塩原温泉まちめぐり案内人の会・塩原文学研究会・塩原郷土史研究会化の活動については、地域の歴史文化を継承していくため、その活動に連携して取り組みます。

【区域(3)に関する措置】

No.	事業名／事業概要	取組主体	財源	R5	R6	R7	R8	R9	R10~
(3)-1	塩原温泉天皇の間記念公園管理運営 指定管理による施設管理等（入場料徴収、清掃、消防設備点検、警備等）を実施。	行政 (塩原支所産業観光建設課)	市						
(3)-2	塩原温泉まちめぐり案内人の会との連携 塩原温泉まちめぐり案内人の会の活動に連携して取り組む。 活動内容：まちめぐりツアーを開催し、観光客へ歴史、文化、自然に関するガイドを行う。	団体	団体						
(3)-3	塩原文学研究会との連携[再掲(6)-2] 塩原文学研究会の活動に連携して取り組む。 活動内容：塩原地区の文学碑等の案内を実施。塩原文学研究と文学散歩ガイド、講話の実践。	団体	団体						
(3)-4	塩原温泉郷土史研究会との連携[再掲(9)-2] 塩原温泉郷土史研究会の活動に連携して取り組む。 活動内容：塩原温泉地区に関する郷土史を研究。	団体	団体						